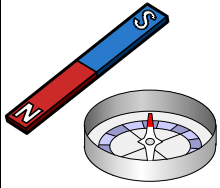
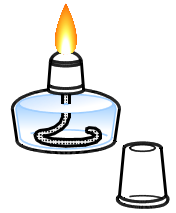


学校名	福島県相馬市立桜丘小学校	校長	山下 富夫
住所	福島県相馬市中村字桜ヶ丘179		
TEL	0244-35-3148	ホームページアドレス	http://www.bb.soma.or.jp/~sakura



理科教育、3年間の軌跡



取組の概要

県小教研の研究指定を受け、研究主題『自ら自然にはたらきかけ、感じ、考え、実感できる理科学習の充実 ～課題を見出し、一人一人の考えを伝え合う理科学習をめざして～』のもと、理科学習における「言語活動の在り方」と「科学的な見方・考え方」を育む研究を推進してきました。

内 容

1年次：科学的な見方・考え方

各学年における科学的な見方・考え方（3年：比較する能力・4年：関係付ける能力・5年：条件制御の能力・6年：要因や規則性、関係を推論する能力）を的確に把握し、観察・実験を重視しました。これらの力を向上させるとともに、予想・仮説や観察・実験結果から関連づけた考察を自分なりの言葉で表現する力を育む研究を推進してきました。



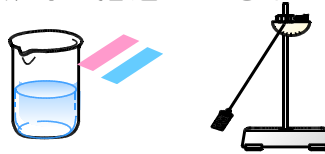
実践授業(3年)：明かりをつけよう



実践授業(6年)：水よう液の性質とはたらき

2年次：科学的に見たり考えたりする子どもの姿

「科学」の基本的な概念は、「実証性」「再現性」「客観性」のすべてを満たすことが求められます。客観性を高める話し合い、つまり誰もが合意できる話し合いを成立させるには、見通しをもって観察・実験（実証性）をし、数多くの観察・実験結果（再現性）を得ることが重要であると考え、「科学」の質を高める研究を推進してきました。



実践授業(5年)：ふりこのきまり

3年次：相互理解と合意形成

観察・実験をさらに充実させ、「科学的な見方・考え方」の視点に立ち、問題解決の過程における話し合い活動を重視しました。予想・仮説の段階においては、既習内容や体験を根拠に互いの考えを認め合う『相互理解につながる話し合い』、観察・実験結果に基づいた考察の段階においては、『合意形成を得る話し合い』を大切に研究を推進してきました。

取組への感想

- ◎ 1年次の研究から3年間、「言語活動」を重視した授業を心がけ、科学的な事象を自分の言葉で表現できる楽しさを児童一人一人が味わうことができました。
- ◎ 児童一人一人が実験器具を扱い、直接実験することで、理科への関心がより高まりました。「次の実験が楽しみ」という声が聞かれるようになり、主体的に理科と向き合う児童の姿が多く見られるようになりました。
- ◎ 教材準備や予備実験などに十分時間をかけると、児童は生き生きと活動することができました。